

令和7年(2025年)度事業報告書

令和7年1月1日～12月31日

令和7年度事業活動として下記の事業を行った。

1. 2025年度日米草の根交流サミットサンフランシスコ・ベイエリア大会開催
2. 2026年日米草の根交流サミットフィラデルフィア大会開催準備
3. 2027年度日米草の根交流サミット高知大会開催準備
4. 2028年以降の日米草の根交流サミット開催準備
5. 広報活動

1. 第32回日米草の根交流サミット 2025 サンフランシスコ・ベイエリア大会開催

<定款上の該当条項:第1章第4条>

開催地 : カリフォルニア州サンフランシスコ・ベイエリア

開催日 : 2025年6月3日(火)～10日(火)

共催 : 北カリフォルニア日本協会(JSNC)、CIE-US

後援 : NAJAS

参加者数 : 日本人参加者 : 51名

アメリカ人同窓生参加者 : 4名

中濱家より1名

ホイトフィールド家より3名

ペリー家より1名

大会参加者総数 : **637名**

(オープニング及びクロージングの式典、歓迎レセプションとフェアウェルパーティ、ホストファミリー、ボランティア、スタッフ、支援者、6地域分科会でのプログラムスタッフや参加者等を含む)

内容 : 2010年以来2回目となるサンフランシスコ・ベイエリアでのサミット大会が昨年和歌山大会開催直前に決定し、実質1年未満の準備期間を経て、2025年6月3日(火)から10日(火)にかけての8日間、当年創設120周年を迎える北加日本協会の協力によりサンフランシスコ・ベイエリア8地域で開催された。受け入れ団体の要請により、定員50名の小規模での開催となったが、10代から70代までの幅広い年齢層の合計51名の日本人が参加した。2025年は、1860年に米国へ初めて日本公式使節団が派遣されてから

165年、随船の咸臨丸に通訳として乗船したジョン万次郎もサンフランシスコに訪問している記念の年でもあり、それに関連する史実に触れながら、日米市民の交流の原点となる地域での草の根交流の重要性を再確認した大会となった。

●サンフランシスコ・ベイエリア大会受け入れ体制

日米草の根サミット受け入れにあたり、北加日本協会を中心とする実行委員会が構成され、各地域分科会は、各地域で活動する姉妹都市協会等の団体によって運営された。

スケジュール：

6/3(火)		日本出発→サンフランシスコ到着 ウォーキングツアー&ランチ MLB(ジャイアンツ vs パドレス)観戦	ホテル・ニッコー・ サンフランシスコ 泊
6/4(水)	日中 夕刻	ローカル・ツアー オープニング式典・ウェルカムレセプション	
6/5(木)	AM PM	地域分科会へ出発 地域分科会プログラム	ホームステイ
6/6(金)	終日	地域分科会プログラム	
6/7(土)	終日	ホストファミリーと過ごす一日またはプログラム	
6/8(日)	AM PM	ホストファミリーとの時間 クロージング式典・フェアウェルパーティ	エンバシー・スイ ーツ・SFO 泊
6/9(月)	AM	帰国の途(またはそれぞれの目的地)へ出発	機内
6/10(火)	PM	日本到着	

葛尾中学校プログラム

6/6(金)	AM PM	日本出発→サンフランシスコ到着 地域分科会プログラム	ホームステイ
6/7(土)	終日	ホストファミリーと過ごす	
6/8(日)	AM PM	ホストファミリーとの時間 クロージング式典・フェアウェルパーティ 式典後、ホストファミリー宅へ帰宅	
6/9(月)	AM PM	ホストファミリーによる送迎でホテル集合 カリフォルニア大学バークレー校訪問・見学	エンバシー・スイ ーツ・SFO 泊
6/10(火)	終日	サンフランシスコ市内観光・見学	
6/11(水)	AM	帰国の途へ	機内
6/12(木)	PM	日本到着	

●ローカル・ツアー (6月4日)

午前中は、一般参加者とサミット同窓生(アメリカ在住者)には、特に人

気の高いアルカトラズ島ツアーを、一方高校生参加者には、JSNC スタッフやボランティア、そして CIE-US 理事らと市内を縦断しながらチャイナタウンやケーブルカー乗車など観光名所を巡るウォーキングツアーを用意し、街の歴史や文化を学ぶ機会を提供した。昼食会場で、2 つのグループは合流し、午後は、市内の小学校で日本語教師を務める田中淳子先生のガイドによる「咸臨丸入港記念碑」とジャパントウンを見学し、日本人移民と地域コミュニティの歴史について学んだ。

【アルカトラズ島コース】50名参加

【市内ウォーキング】14名参加

● オープニング式典と歓迎レセプション (6月4日夕刻)

オープニング式典及び歓迎レセプションは、参加者の宿泊施設であるホテル・ニッコー・サンフランシスコのボールルームで開催。司会のステイブ・ポロック北加日本協会代表理事の司会進行により、ラリー・グリーンウッド同理事長、大隅洋在サンフランシスコ日本国総領事、石川和秀 CIE 理事長が挨拶。その後、ペリー提督子孫のマシュー・ペリー氏による短いスピーチの後、中浜家とホイットフィールド家の間で恒例の地球儀の交換が行われた。さらに、高知市土佐ジョン万会により派遣された「万次郎英語弁論大会特別賞受賞」者の玉城あんずさんが受賞スピーチを披露。また、2010年のサンフランシスコ大会でも披露されたクラレンドン小学校生徒たちによる脚本・演出の「万次郎」の寸劇とバークレー高校の生徒たちのサンフランシスコらしいジャズ演奏が披露され、その完成度の高さは会場を感動させた。

最後に、次回大会のホストであるフィラデルフィア日米協会によるフィラデルフィア大会の紹介は、参加者たちに翌年のサミット大会への期待を胸に抱かせた。心のこもったおもてなしは、14年ぶりのサンフランシスコでの再度の交流を祝うにふさわしい、温かな式典となった。

● 地域分科会 (6月5日～8日：3泊4日)

大会3日目の朝、それぞれの地域分科会に向けて出発。3泊4日のそれぞれの分科会では、ベイエリアならではの最新技術などのIT文化からワイナリーなど地域に密着した文化に触れつつ、ホームステイを通じて各地域の日本とは異なる日常生活も体験しながら、工夫された濃いプログラムを通して、新しい友情も育んだ。

また、6月6日(金)に到着した葛尾中学校は、空港から直接分科会へ参加。サニーバール中学校生徒たちと短時間ながらも深く親密な交流を育んだ。また、それぞれのホストファミリーでの同世代の家族との交流を通して、地域ならではの文化に触れた。

< 地域分科会及び運営団体 >

- ① サンフランシスコ市(高校生プログラム):北加日本文化会館
- ② ペニン斯拉:北加日本協会
- ③ サウスベイ:サニーベール姉妹都市協会(福岡県飯塚市)
- ④ イーストベイ:バークレー・堺姉妹都市協会(大阪府堺市)
- ⑤ ノースベイ:セバストポル・ワールド・フレンズ(佐賀県武雄市)
- ⑥ サニーベール(葛尾中学校プログラム):サニーベール姉妹都市協会

● クロージング式典&フェアウェル BBQ パーティー (6月8日)

3泊4日の地域分科会終了後の6月8日(日)、参加者たちはそれぞれのホストファミリーたちと式典会場のサンフランシスコ湾に面するコヨーテ・ポイント公園へ集まった。他にボランティア、スタッフ、姉妹都市を訪問中の武井政一飯塚市長を含む関係者が集い、クロージング式典とカリフォルニアならではのBBQフェアウェルパーティーが催された。スティーブ・ポロック北加日本協会代表理事、武井政一飯塚市長の挨拶に続き、ミキコ・モリムラ CIE-US 理事によるサンフランシスコ大会開催に関わったすべての方々へのお礼の言葉と日本人参加者に向けたフィラデルフィア大会への参加の呼びかけが述べられた。

式典の最後、ホストファミリーが用意した「思い出のサンフランシスコ」の歌詞ボードが掲げられると、会場の参加者全員で合唱し、この地での再開を約束。別れを惜しみつつも、北カリフォルニアの温かなホスピタリティに満ちた雰囲気の中で無事に幕が閉じられた。

メディア掲載：胆江日日新聞 6/3

● ポスト・サミット①：葛尾中学校エクスカーション (6月9・10日)

今回は一般参加者へのサミット終了後のオプションのプログラムの提供はなかったが、変則的なスケジュールでの参加となった葛尾中学校対象に2日間のエクスカーションプログラムを用意した。

1日目：UCバークレー校見学ツアー（協力：JSNC、UCバークレー）

2日目：サンフランシスコ市内観光

- ユニオンスクエア～チャイナタウン～フィッシャーマンズワーフへのウォーキングツアー
- ケーブルカー・Waymo乗車
- ジャパンタウン見学ツアー（協力：JSNC、JCCCNC、田中淳子氏）

● ポスト・サミット②：水沢第一高校・JCCCNCタカハシ交流プログラム in 奥州市 (8月3・4日)

サンフランシスコ市分科会をホストした団体（JCCNC）が主催する高校生日本研修プログラム（JCCCNC タカハシプロジェクト）の一環として、サンフランシスコ大会に参加した水沢第一高校がホストとしてサンフランシスコ市分科会で交流した高校生たちを受け入れるプログラムが用意された。CIE 事務局主導のプログラムではないが、サンフランシスコ大会の分科会での出会いと対話を契機として、双方の団体の自発的な意思と相互の信頼関係のもとに実現した。サミットを通じて築かれた関係性が、大会終了後も自然な形で継続・発展した、二次的な交流機会として日本での往復型交流が生まれたのは、サミット事業の大きな成果の一つと言える。ホストとなった水沢第一高校の高校生たちは、地元名所や地域文化の紹介、生徒主体のプレゼンテーション、日本文化体験、さらに食事を共にする交流など、タカハシ生徒たちと共に多様な活動を通じて相互理解を深めた。日米双方の参加者が主体的に関わり、草の根レベルでの持続的なつながりが具現化されたことは、日米草の根交流サミットが有する「人と人を結び、その後の行動を生み出す触媒としての意義」を明確に示す事例となった。

2. 第 33 回日米草の根交流サミット 2026 フィラデルフィア大会準備

令和 8 年度の第 33 回日米草の根交流サミット 2026 フィラデルフィア大会開催について、以下のような準備を進めた。

開催地： ペンシルベニア州フィラデルフィア及び周辺地域
開催日： 2026 年 10 月 20 日(火) ～ 27 日(火)
共 催： フィラデルフィア日米協会（JASGP）、CIE-US
後 援： NAJAS

地域分科会：以下の 8 地域での分科会を開催することとし、準備を進めた。

- ①フィラデルフィア・センターシティ
- ②サウス・フィラデルフィア ③サウス・ジャージー
- ④スワースモア ⑤メインライン
- ⑥ノース・ウェールズ&グリーン・レーン
- ⑦ランカスター ⑧ベツレヘム

式典及びレセプション（会場予約）：

- **オープニング：** インディペンデンス・ビジター・センター「リバティ・ビュー」（独立宣言が採択された「独立記念館」前の広場の一部の会場）
- **クロージング：** ザ・イン・アット・ヴィラノヴァ(ヴィラノヴァ大学の宿泊施設)

宿泊ホテル：到着後 2 泊と最終日 1 泊の宿泊施設として下記を予約

- ウィンダム・フィラデルフィア・ヒストリカル・ディストリクト
(10月20・21日)
- ザ・イン・アット・ヴィラノヴァまたはザ・ラドナー・ホテル
(10月25日)

ローカル・ツアー：

大会2日目10月21日(水)、宿泊施設はオープニング式典会場に近く、また周辺には歴史的建造物や史跡が多いことから、参加者全員で史跡を巡るウォーキングツアーを行いながら、式典会場へ向かう準備を進めた。オープニング式典を挟んで、午後には、ローゼンバック博物館に所蔵されている、土佐藩の河田小龍により作成された万次郎の漂流記録「漂異紀畧」の特別展を見学する。フィラデルフィアと日本との関りについて学ぶ機会の提供を整えた(継続中)。

参加者募集活動：

フィラデルフィア大会への参加者募集のため、下記の活動を行った(継続中)。

1. 募集パンフレット及びフライヤーの作成・配布
2. サンフランシスコ大会での告知
3. 日米姉妹都市サミット(9月)での告知
4. メール・SNS他での配信

3. 第34回日米草の根交流サミット2027高知大会準備

令和9年度の第34回日米草の根交流サミット2027高知大会開催について、以下のような準備を進めた。

開催地： 高知県高知市、土佐清水市及び県内各地域

開催日： 2027年5月25日(火)～31日(火)

共催： 高知県、土佐清水市、CIE-US

後援： NAJAS

式典及びレセプション：以下の地域で会場を調整(継続中)

- **オープニング：**土佐清水市内
- **クロージング：**高知市内を予定

宿泊ホテル：下記施設を予定

ザクラウンパレス新阪急高知(5月25日・30日)

土佐清水市内(5月26日)

ローカル・ツアー：

大会 2 日目、高知市より式典会場となる土佐清水市へ参加者全員バスで移動。その道中、高知県ならではの史跡・施設を巡る予定。

土佐清水では、万次郎の生家や万次郎資料館にて、万次郎の生い立ちや彼の功績について学ぶ機会を準備。

参加者募集活動：

高知大会への参加者募集のため、下記の活動を行った（継続中）。

1. フライヤーの作成・配布
2. 日米姉妹都市サミット（9月）での告知
3. CIE-US による広報活動
4. メール・SNS 他での配信

4. 2028 年以降日米草の根交流サミット大会開催準備

2028 年度以降の日米草の根交流サミット大会の開催候補地として、過去大会開催地の団体や自治体、協力者、過去大会参加者及び CIE-US と全米日米協会の助言を得ながら、以下の関係各所へのアプローチやコネクションづくりを進めた。

5. 情報の発信

- 1) ニュースレター「草の根通信」を年度内に 4 回制作。
ホームページに掲載するとともに、必要部数を印刷して配付した。
草の根通信 122 号（3 月）
草の根通信 123 号（6 月）
草の根通信 124 号（9 月）
草の根通信 125 号（12 月）
- 2) 2025 年版活動報告書 (Annual Activity Report) を発行。
- 3) ホームページ、Facebook などの SNS を通じた発信：
大会告知、ニュースレター、ウェブイベントの告知、活動情報等を掲載した。
- 4) サブホームページ (grassrootssummit.net) の新設及び発信：
過去のアーカイブや、万次郎やペリー提督、サミット関連に関する情報を掲載した。

以上

令和7年(2025年)度事業報告書 附属明細書

令和7年1月1日～12月31日

特になし。

- 参考資料として以下を配付
 - － 2025年版活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)